

よりよい生協づくりのために

2022年度 組合員アンケート報告

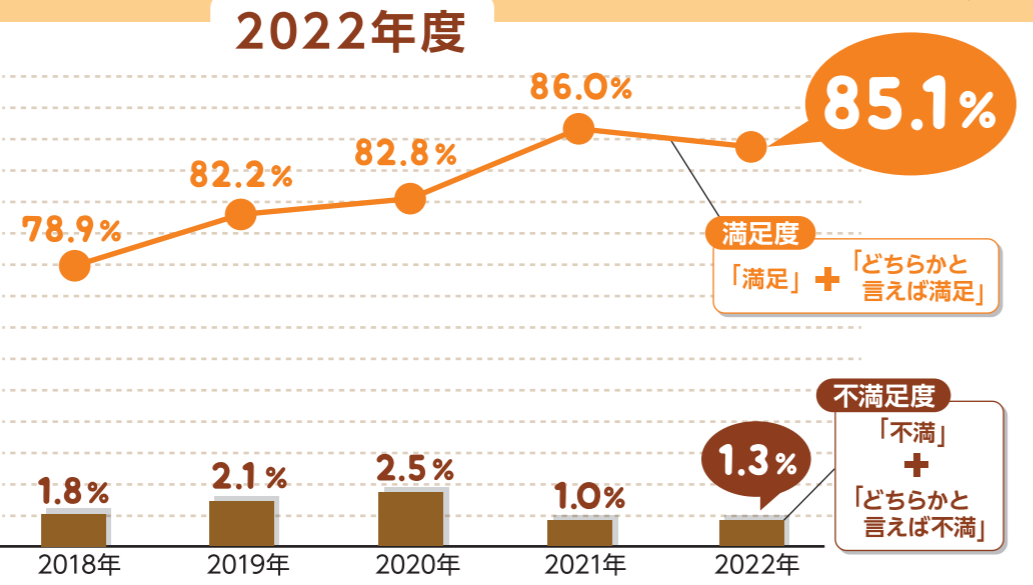


よどがわ市民生協では、毎年「生協」「商品」「しくみ」「配達担当者」「コールセンター」について組合員にアンケートをしています。今後の改善点を明らかにし、今後の事業・経営にいかします。(3,000人の組合員を対象に2022年6月実施。回収率37.1%)



生協への満足度

現在、よどがわ市民生協に加入されて満足していますか？



2022年度の傾向

配達担当者の満足度

2021年 79.6% → 2022年 80.7%

過去最高の80%台を越えました。「あいさつ」「会話・言葉づかい」は満足度が高い理由として多くあげられました。ただ、「どちらかと言えば満足」は増加しましたが、「満足している」が減少しました。「商品の取り扱い」「配達時間」について満足度の高い・低い両方の理由にあり、評価がわかれしました。



コールセンターの満足度

2021年 77.2% → 2022年 75.3%

今回も「会話・言葉づかい」「対応の迅速さ」は満足度が高い理由となりました。「つながりやすさ」「営業時間」は満足度の低い理由となっていますが、それ以上に「その他」が非常に多く、内容も多種多様となっています。



商品の満足度

2021年 80.1% → 2022年 80.2%

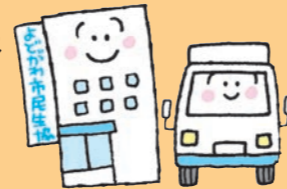
今回も過去最高の満足度になりました。「安全性」「利便性」は今回も満足度が最上位となりました。逆に「価格」「鮮度」「量目」は、どちらかと言えば満足度が低い理由としてあげられる割合が多く、課題となる項目です。



よどがわ市民生協に望むこと

- 1位 安全・安心な商品 80.2%
- 2位 低価格 42.7%
- 3位 品揃えの充実 18.9%

今回も「安全・安心な商品」が多く求められていることや、ウクライナ紛争や新型コロナなど、社会的諸問題による景気の影響により、『低価格』を求める声も昨年に続き上位となり、『品揃えの充実』を上回る結果になりました。



しくみの満足度

2021年 80.3% → 2022年 77.3%

過去同様に「商品のお届け状態」が1番の理由になりました。一方「配達曜日・時間」「個配管理手数料」は満足度が低い理由として多く挙げられました。配達曜日や時間が選択できない点が低評価となっています。

2022年度組合員アンケートの結果をもとに今後の課題をまとめ、さらなる改善に取り組みます。

よどまるレポート

008 夕食サポート10周年

日替わり弁当をお届け



2013年3月4日に夕食サポートが65食からスタートし、今年で10周年を迎えました。現在の食数は約2,500食です。

夕食サポートは、月曜から金曜日に、日替わりでごはん付お弁当(またはおかずのみ)をお届けする事業のことで、注文は1週間単位となっています。また、管理栄養士が献立をつくり、栄養バランスに

配慮したメニューの提供を行い、怪我・入院・買い物困難で夕食づくりに困っている組合員に対し、夕食(弁当、副食)をお届けしています。



組合員のさまざまな声に答えて

アンケートの配布を行い、組合員の声を大切に、常に献立・食材の改善・開発をすすめています。

また、ご希望の組合員さんには安否確認を行い、不測の事態発生時には登録連絡先に連絡をいれます。身寄りの無い組合員さんには、自治体や地域の包括支援センターと連携し対応しています。



地域とともに

今回は...

よどがわ市民生協が食材提供をしている団体紹介
団体名: [シンママ応援団とよなか]
住所 豊中市庄内西町3-10-26
『ごはん処おかえり』

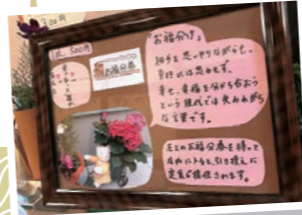


『ごはん処おかえり』がみんなの居場所

豊中市の南部は、少子高齢化が進む地域で、活動場所の『ごはん処おかえり』に集まって来る人たちも、赤ちゃんからお爺ちゃんお婆ちゃんまで世代年代問わずさまざまです。特に『シンママ応援団とよなか』の拠点であることから、訪れるシングルマザーに、『第2の実家』と呼ばれています。

『シンママ応援団とよなか』とは

さまざまな理由から、一人で子どもを育てているシングルマザーや発達障害のある子どもを持つお母さんたちを支えるべく2018年に発足しました。そして団体発足のきっかけとなったのは同年に起きた大阪北部地震です。LINEなどの口コミで、現在では相談者数140組を超えるまでになりました。



子どもたちの笑顔が見たくて

基本的には『ごはん処おかえり』での活動がメインで、毎日が子ども食堂として、子どもたちは

1日何度食べてもゼロ円という取り組みや、月に1回子ども参加型のご飯やおやつ作りのイベントを行なっています。

2022年は地元の庄内神社にて、子どもは完全無料でたのしめるイベントとして、「こども縁日」「冬のお楽しみ会」を行いました。どの子ども帰る時は両手いっぱいお土産を抱え「今度はいつやるの?」と、満面の笑みで声をかけてくれました。『経済状況でお祭りに来られない子を作らない』『お祭りに来る子を選ばない』ための完全無料イベントを継続して行なっていきたいと思います。特別なイベントも日常生活もどちらも大切に取り組みを続けていきたいと思っています。



こころの寄りどころであるために

『しんどい時にしんどいと言える場所』の大切さや重みを日々感じながら、これからも頑なに・頑固に、『お腹いっぱいになればなんとかなる!』を根拠なき理由に、地域の人たちの駆け込み寺のような居場所づくりを、今後も模索しながら行なっていきたいと思っています。